

# 筑波大学附属図書館 学習・研究支援体系図2015

2016/2/8更新

※「高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版」(2015年3月 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会)に準拠  
注)点線枠のプログラムは、今後実施が想定されるもの

学習支援：学習者の情報活用行動プロセスの各場面における達成要件と、その習得を支援する図書館のマスサポートプログラムをレベルにより分類・配置した。研究支援：教職員の情報活用の場合と、図書館のマスサポートプログラムの対応を表した。

学習支援						
レベル	初級		中級		上級	
	与えられたテーマ・情報源をもとにレポート等を作成できる		与えられた課題について自らテーマを設定し、先行事例を踏まえた上で自らの意見を含んだレポート等を作成・発表できる		自ら調査・研究テーマを設定し、学術的な論文等を作成・発表できる【卒論・修論レベル】	
主な対象	学群1,2年生		学群2,3,4年生		学群3,4年生、大学院修士	
情報活用行動プロセスの場面	達成要件	マスサポートプログラム	達成要件	マスサポートプログラム	達成要件	マスサポートプログラム
1 課題を正しく認識し必要な情報の範囲を定める	□ 課題の意図を正しく理解できる		□ 課題に沿ったテーマを設定できる □ 自分が設定したテーマについて他の人に説明できる		□ 自ら調査・研究テーマを設定し、仮説を立てることができる □ 課題解決のために不足している知識や情報を把握できる	
2 課題解決のために情報探索を計画する	□ 学術情報流通のプロセス、メディアの種類や特性を説明できる □ 文献入手に関わる図書館サービスを利用できる □ 著作権法など、情報を探索する際の適法性に留意できる	A1-E 週5図書館生活どうですか？The Movie A1-E 週七のお薦め利用術！ A1-E 図書館チュートリアル A1 新入生履修ガイダンス A1-C フレッシュマンセミナー A1-W 新入大学院生オリエンテーション A1-W 留学生オリエンテーション A1-W 図書館の使い方(初心者編) B1-W 30分でわかる！文献検索から入手法まで	□ 調査テーマに関する先行事例の調査を行うことができる □ 信頼性の高い情報源を推測できる □ ひとつの事柄に対し、複数の情報源を確認することができる	B2-W 卒論準備セミナー B2-C 基礎化学実験 化学情報検索 B2-W 日本語論文の探し方 B2-W 外国語論文の探し方(専門データベース活用法) B2-C 国語I,II,III B2-C 知の探検法	□ 専門分野における学術情報の流れを説明できる □ 信頼性の高い情報を選択できる □ 計画の実施においてプロセスのモニタリングができる	B3-WFV インパクトファクターセミナー B3-W まだ間に合う！今更聞けない図書館セミナー
3 探索計画に基づき必要な情報を入手する	□ 図書館の蔵書検索ツールを利用し、指定された資料を検索できる □ 図書館の資料配置・分類法を説明できる □ 参考・引用文献リストを適切に読み取り、調査に活用できる	E1-W 多読入門セミナー D1-WF 大学で身につけたい言葉の力 疑うことから始めよう-批判的に読む-	□ 課題に応じた情報源を選択できる □ 文献検索の検索語(同意語・上位語等)や演算子(AND・OR・NOT)を工夫し、データベースを活用できる □ 情報の出所や信頼性を点検・確認し、必要な文献を選択できる	D2-WF 事実？意見？ 図表を文章で表現する D2-WF 事実？意見？ 「事実」と「意見」を区別する D2-WF 自分を守る情報リテラシー 情報の山で迷わないために D2-WF 事実？意見？ 図表を文章で表現する D2-W セミナー「魅せる！プレゼン：あなたは伝える工夫をしていますか？」 D2-W 著作権ワークショップ	□ 先行研究論文等の引用文献リストを利用し、計画的に探索できる □ 望ましい情報が得られなかった場合、行った検索プロセスを評価し、見直すことができる □ 他機関の図書館から文献を取り寄せるなど、図書館のサービスを必要に応じて利用できる	C3-WV 文献管理ツール RefWorksの活用法
4 収集した情報を批判的に分析・評価し整理・管理する	□ 学術的な文章の要旨をまとめることができる □ 情報を取捨選択し、活用できるように整理できる		□ 入手した情報の正確性・真正性と、調査テーマとの関連性を評価できる □ 過去の情報と新たに入手した情報の違いを比較できる □ 資料リストを作成し、管理できる		□ 批判的思考をもとに、入手した情報の論理性・合理性・正確性・関連性を評価・分析できる □ 文献管理ツールを使用して、収集した文献情報を活用できるように組織化できる	C3-WV 文献管理ツール RefWorksの活用法
5 整理した情報を批判的に検討し知識を再構造化する	□ 入手した情報、データおよび意見を比較・分類して、自らの考えと類似する点や違う点を説明できる		□ 複数の情報、データおよび意見を比較して、自らの考えとして最も相応しいものを客観的に選択できる □ 選択した情報、データおよび意見を自分の文脈で意味づけ、自分の言葉で説明できる		□ 得た情報、データおよび意見を一般的な概念として構成し、それを新たに適用することで知識として再構成できる □ 再構成した知識をもとに、自らの知識を再構造化し、自分の意見として説明できる	
6 情報を活用・発信しプロセスを振り返る	□ レポートの一般的な体裁を説明できる □ 引用と剽窃の違いを説明できる □ 情報の典拠を明示し、適切に引用できる □ 参考・引用文献リストを作成できる □ 読み手を意識してレポートをまとめることができる	D1-WF 文書リテラシー 小論文とレポートの違いはわかりますか？ D1-WF 文書リテラシー 情報を構造化する D1-WF 大学で身につけたい言葉の力 考える述べ方-主張の<構造>	□ 事実に、理論的な根拠を示しながら、問題提起に対応した主張を論理的に述べることができる □ 自らの考えを、論拠を示しながら論理的に発表できる □ 図表・音声・画像を活用できる □ 知的財産権・著作権・個人情報保護等の情報倫理に留意できる		□ 学術論文の構成に沿った文章を記述できる □ 受け取る相手に適したメディア・形式で適切に発信できる □ それぞれの発表の場に適した作法で発表を行うことができる □ 自分が発信した情報・論文を評価し、情報活用行動プロセス全体を省察する	D3-WV 英語論文の書き方セミナー D3-W 博士論文インターネット公表の基礎知識 D3-L 申請書で伝えるあなたの研究 D3-L 伝える研究のアウトプット術 D3-CF ザ・プレゼンテーション

研究支援	
研究・教育・大学の行政管理に際し、学術的な情報を活用することができる	
大学院博士、教職員	
情報活用の場面	マスサポートプログラム
利用可能な情報源、情報サービスを確認し、利用する	A-W 新任教員オリエンテーション
情報探索ツールを活用して、効率的な文献入手プロセスを実践する	研究者のための文献情報DB講習会 職員のための文献情報DB講習会
研究・学術情報のサイクルを知り、研究業績の登録、探索を行う	D3-W 博士論文インターネット公表の基礎知識 B3-WFV インパクトファクターセミナー TRIOSサポート
収集した情報や自著を客観的・批判的に分析・評価し、整理・管理する	C3-WV 文献管理ツール RefWorksの活用法
著作権・特許権を含む知的財産権の遵守、個人情報保護、盗用・捏造・改ざんの防止など研究倫理にのっとった研究活動を行う	研究倫理 D2-W 著作権ワークショップ D2-WF 自分を守る情報リテラシー 情報の山で迷わないために
読者の立場に立った明確で堅固な主張と論理展開を持ち、適切な形式で発信する	D3-W 英語論文の書き方セミナー D3-L 申請書で伝えるあなたの研究
情報活用行動プロセスを省察し、自分の発信した情報や論文を評価する	D3-L 伝える研究のアウトプット術 D-W オープンアクセス方針説明会